

はじめに

北杜市立高根西小学校
校長 河西 俊英

本校は、「わくわくイングリッシュサポート事業」の積み上げの成果を生かし、移行期の初年度にもかかわらず、5・6年生の外国語活動を年間35時間とり授業を進めている。授業を行うにあたり学習指導要領の内容を吟味しながら実践を始めているが、初年度の移行期であることを踏まえると、実践課題と指導の工夫のあり方の二点から課題把握をしていくことにした。

そこで、研究主題を「自ら考えよく学び、生き生きと活動する児童の育成 ～外国語活動の実践を通して～」とし、子どもたちへの外国語活動の実践を進め方ながらどうコミュニケーション能力の素地を培っていけばよいのかを考えていくことにした。加えて、英語ノートと本校独自の指導計画との整合性のつけ方、学級担任による外国語活動の指導の仕方、ALTや地域人材の効果的な活用の仕方、児童の興味関心を高める教材・教具の工夫等を考えた。

4年生の授業実践「買い物のごっこをしよう」からもわかるように、目標をコミュニケーション能力の素地を育てることにおき、買い物ごっこをする場面を設定し児童を店の人とお客さんに役割分担しながら外国語に慣れ親しみむように活動を工夫することが小学校の外国語活動の趣旨を生かした授業展開につながると思う。

また5年生の授業実践では、電子黒板を活用して、ALTがいなくても子どもが外国語の音を聴くことが楽しいと感じられる授業を行うことができた。担任が電子黒板の画面に現れた絵カードを指すと、電子黒板から流れる英会話に合わせて練習をした。担任だけでも十分に英語のリズムを崩さないようにしながら外国語活動の音声を楽しみながら学ぶことができた。高学年児童はとかく意味を求める気持ちが強くなる傾向があるので、教師がきめ細やかな指導・話し方に心がけて意味がわかるように展開することを大事にすること、子どもが外国語を日本語に置き換えたときに退屈にならないようにする工夫するようにした。

学級担任による外国語活動の実践から、英語に堪能なALTが授業に参加していても、必ずしも授業もプロではないので、授業は子どもを様子を熟知し指導に長けている担任が主導で授業展開をしていくことが望ましい。また授業は、歌、ゲームなどの活動取り入れて英語のリズム、イントネーションに慣れ親しみながら、楽しく学ぶことを大事にしたい。外国語活動は、言葉だけでなく身振り手振り、表情などを工夫して意志の伝達をしようとする態度を育てるいくことを大切にしたい。

今までの実践から課題も明らかになった。目の前の子どもに合わせて目標を決め、指導内容を検討しカリキュラムを作成すること。さらに本校の外国語活動の積み上げを大事にし外国語活動を指導していく。その意味からも1年生～4年生の英語活動とどうつなげていくのかを考えていくことにする。また中学年の総合的な学習は外国語活動と切り離し、国際理解教育の視点で探求型の授業に考え直していくことにする。これからも実践を通して課題を解決し、よりよい学びの方策を求めていきたい。

最後になりましたが、ご指導いただいた中北教育事務所の興水清司先生、北杜市教育委員会学校教育課の仁科浩一先生に感謝申し上げ「はじめに」とします。